

要求実現の力をもつ
労働組合をめざし
全国で組織建設と
拡大をすすめよう!



発行所
JMITU
(日本金属製造情報通信労働組合)
〒114-0023 東京都北区滝野川
3-3-1 ユニオンコーポ 3階
電話 (03) 5961-5601~2
FAX (03) 5961-5603
※組織外、無断転載禁止

核兵器禁止条約の早期発効めざし、日本政府に圧力 ヒロシマで原爆のこと、戦争のこと、平和のことー若い世代中心に交流



原爆ドーム前で (8月5日)

原水爆禁止世界大会

広島にJMITU代表団31人

2018年原水爆禁止世界大会(8月4~6日・広島)に、JMITUから31人の代表団が派遣されました。今回はさらに青年の比率が高まり、半数が30歳代以下の代表でした。

4日の開会総会では平和行進通し行進者の五十嵐成臣さんとともに全員が登壇。東京~広島のリレー旗行進をしめくりました。翌5日は本川小学校の平和資料館から原爆ドーム、平和公園内のモニュメント、平和記念資料館をめぐり、原爆投下直後のヒロシマを体感しました。夜には、広島、山口の地元の通信の仲間や福岡の代表も加わり現地交流会。「広島で感じたことを職場にもち帰り伝えていきたい」などを職場にもち帰り伝えていきたい」など、それぞれが感じた「ヒロシマ」を語り決意しあいました。

来年も大会に代表を送りたい

核兵器は非人道的な大量殺戮兵器であり、生き残った人にも放射線による障害を与えます。戦争をすることも、核兵器を再び使用することも絶対にあっては行けないと、強く思った。これからは核兵器のことを後輩に伝えていきたい。広島、長崎に参加し、核兵器の怖さを知ってほしい。来年も世界大会(長崎)に東京電機から代表を送りたいと思います。(茨城・東京電機支部 谷田部匡男・28歳)

遺跡をめぐり、心に響きました

73年前の原爆がいかに多くの人を蝕んできたかがよくわかりました。遺跡めぐりを通じて、その悲惨さや悲しみが淡々と心に響いてきました。今後二度と過ちをくりかえさせないために、世界大会の存在が大切だと思いました。(京滋・カシフジ支部 大室了介・23歳)

「いま、職場の仲間はJMITUを求めている」

要求をつかみ、加入の訴えひろげ、すべての職場で仲間を増やそう



組織の拡大と強化へ、東西で組織建設推進会議（8月26日・東日本会議）、写真下：西日本会議（25日）



「職場でいまJMITUが求められていることを共有しあい、全国で組織拡大に足を踏み出そう」「今年度1000人の組合拡大をやりきり、要求実現の力を大きくしよう」と、8月25日（西日本）、26日（東日本）、東西で組織建設推進会議がおこなわれ、14本部・地本から約80人が参加しました。

会議では、無期化転換での選別やパワハラに怒る職場の声をとりあげた大量宣伝から相談が増え、正社員を含む拡大がすすんでいる通信産業本部や一方的な賃金減額・パワハラに「もうガマンできない」と自ら組合に加入（日本IBM）、「連合・第二組合は何もやってくれない」と、第二組合を脱退して加入（埼玉・東京セキスイハイム）などの経験に、職場には不安や悩みがうずまいており、躊躇せず加入を訴えかければ必ず応えてくれるとの確信がひろがりました。会議では、地域支部の活動と援助の強化についても議論となり、引き続き深めることになりました。

沖縄県知事選 「オール沖縄」勝利で辺野古阻止を！

故翁長雄志知事の死去にともなう沖縄県知事選挙が9月13日告示・同30日投票でたたかわれます。JMITUは8月21日の四役会議で、翁長知事の遺志を継ぎ、辺野古新基地建設に反対する「オール沖縄」統一候補の支援を決定し、もちまわり執行委員会で確認しました。今後候補者が確定次第、支援決議などにとりくみます。



「JMITU」(メールニュース版)は、毎月25日を基本発行日としつつ、闘争時の「情報」、組織建設の経験・教訓なども含め適時発行しています。各支部・分会などひろく発信してください。